

研究主題 共に考えを深め合う子の育成（3年次）

～児童が課題意識をもち、協働して課題解決をする指導の在り方～

1 主題設定の理由

(1) 学習指導要領、県・市の重点事項を踏まえた育てたい子どもの姿から

学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことで、児童に求められる資質・能力（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」）を育成することが示されている。また、各教科等において身に付けた資質・能力を活用したり、発揮させたりして、物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた見方・考え方が鍛えられていくことに留意し、児童が各教科等の見方・考え方を働かせながら、各教科等の課題解決に向かう過程を重視した学習の充実を図ることが求められている。さらに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の具体的な内容について、学ぶことに興味や関心を持ち、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」や、子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点に立った授業改善を行うこととされている。

これを受け、新潟県の令和5年度学校教育の重点では、「主体的・対話的で深い学びの実現」を掲げ、「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」が実感できる授業づくりに全校体制で取り組むことを掲げている。柏崎市教育委員会でも、柏崎市学校教育実践上の努力点や柏崎ステップアップ学びプランにおいて育成を目指す3つの資質・能力に向けて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の観点から学習活動を充実し、どの子どもも「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりの推進を位置付けている。このような社会の情勢を踏まえた時、今年度、「児童が課題意識をもって追究」し、「お互いの考えを話し合う」学習を大切に授業改善に取り組み、深い学びにつなげていくことの意義は大きいと考える。

(2) 重点目標を踏まえた育てたい子どもの姿から

当校の昨年度のベネッセ総合学力調査（12月実施）の平均正答率は、国語・算数・社会・理科の教科において、どの学年も市平均よりも概ね正答率が低かった。また、どの学年も、基礎は、教科に関わらず概ね70%以上正答しているが、応用は、教科によって50%を下回る学年も見られた。柏崎市全体の課題である、思考力・判断力・表現力や、知識・技能を活用する力が弱いという傾向が本校も同様であると考えられる。このことを踏まえ、「児童が課題意識をもって追究する学習」「お互いの考えを話し合う学習」に焦点化して授業改善に取り組むことは大切である。

当校の重点目標を授業で目指す姿に照らし合わせると、次のような姿になる。

「自分で決めて」・・・問題意識を基に、解決したい内容や方法を自分事として自己決定する姿
「仲間とともに」・・・協働して学ぶよさを実感しながら追求する姿
「高め合う子」・・・仲間と協働して学ぶことで、思考の変容や深まりを自覚し、新たな問題意識をもって課題解決に取り組む姿

このように、今年度、学校の教育活動全体を通して児童の問題意識を大切にし、児童が課題意識をもって互いに考えを話し合う中で、思考力・判断力・表現力や知識・技能を活用する力を高める指導の在り方を明らかにしていくことにより、重点目標で示す児童の姿を具現することができると考える。

2 研究の内容・方法

3年次は、以下の点に力点を置いて研究を進める。

- ・国語，算数，社会，理科，生活について研究を行う。
- ・児童が課題意識をもって追究するためには，どのような手立てが有効に働くのか。（自分事になり得る単元を貫く課題や本時の課題設定など）
- ・お互いの考えを話し合う学習として，どのような手立てが有効に働くのか（考えをもつための工夫，話し合いの仕方の工夫，教師の問い返しなど）

(1) 内容

柏崎ステップアップ学びプラン「①課題意識をもって追究する学習」「③お互いの考えを話し合う学習」を中心として、「子どもが主体の多様な学び」「一人一人に応じた学び」「他者と力を合わせるリアルな学び」の実現に向けて関連を図る。

①児童が課題意識をもって追究するためには，どのような手立てが有効に働くのか。

（自分事になり得る単元を貫く課題や本時の課題設定）

学ぶことに興味や関心を持ち、見通しをもって粘り強く取り組み、課題解決していくためには、いかに子どもたちが課題を自分事として捉えることができるかがとても大切なことである。どんな課題を設定すると、児童が自分事として問題解決することができるかを考え、設定する。

②お互いの考えを話し合う学習として，どのような手立てが有効に働くのか（考えをもつための工夫、話し合いの仕方の工夫，教師の問い返しなど）

子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話等を通じ、自己の考えを広げ深めるためにはどのような手立てが必要かを探っていく。子どもたちに考えをもたせるためにはどのような課題や体験、問い返しや手立てを行えばよいのか、また、話し合い活動によって自分の考えを強固にしたり新たな気付きを得たりするには、どのように話し合いの目的をもたせたり、話し合いの仕方を工夫したりするとよいかを明らかにしていく。

また①②において、タブレット端末等 ICT 機器も可能であれば活用し、協働的な学びを実現し、児童の深い学びに迫っていく。

(2) 方法

①②を踏まえた単元全体を見通した授業づくりをするとともに、①②を本時に明確に位置付けた授業により検証する。また今年度は、国語，算数，社会，理科，生活の教科で行う。想定する「自分事になり得る単元を貫く学習課題や本時の学習課題」，「お互いの考えを話し合う学習の手立て」を具体的に指導案に明記する。

3 評価の方法

①児童が課題意識をもって追究していたか、②お互いの考えを話し合っていたか、児童の観察評価を行う。参観者は、対象児童を自分で決め、対象児とペアやグループの児童の様相を見取る。その後、協議会を行い、成果と課題をまとめていく。

4 研究の日程と担当

(1) 研究体制

① 公開授業

- ア 全担任が略案を書き、授業を行う。市教委訪問を含め、12月までに2回以上行う。市教委訪問でない授業については、他の職員に周知し、上・下学年部等で参観をする。
- イ 全体研修として授業を1公開する。(希望により2公開以上も可。)
- ウ 全担任は、校内研修計画を基に自己の授業改善(ア)と、授業者の指導案検討や授業準備、まとめの作成を行う。
- エ 指導案の「本単元を通して目指す姿」の中に、学校の重点目標「自分で決めて仲間とともに高め合う子」も踏まえながら、単元全体を通して育てたい設定した児童の姿を具体的に位置付ける。
- オ 本授業の具体的な手立てを明確にし、焦点付けて協議できるようにする。
- カ 本時の授業シミュレーションは、前日にならないように努め、前時を2日前に行っておく。
- キ 指導案の形式は以下のようにする。

内容	主な項目	フォントと字数 等
指導案	細案（公開授業者） A4：4枚程度 （1単元名・2単元の目標・3児童と単元・4手立て①児童が課題意識をもって追究するために②お互いの考えを話し合う学習として・5指導計画・6本時について・板書計画） 略案 A4：1枚程度 （1単元名・2指導計画・3本時について（1）ねらい・（2）手立て①児童が課題意識をもって追究するために②お互いの考えを話し合う学習として（3）本時の計画）	11p 44字×45行 余白 20mm を基準とする。(市教委論文作成要項に基づく)
授業の実際と考察	全体研公開授業者はA4：2枚 その他の職員はA4：1枚	

- ク 授業者は、学年部と研究推進委員会とで授業内容について検討する。全ての公開授業において、事前に全職員に対して、指導案説明会を行う。

② 協議会

ア 協議の内容

目指す児童の姿を具現する具体的な手立てが有効であったかどうか。

イ 協議の進め方

- | | |
|-------------|---------------------------------|
| 1 研究の視点について | 2 質疑(参観者) |
| 3 グループ協議 | 4 協議内容発表・まとめ→明日からの授業に生かせる結論を出す。 |
| 5 御指導 | |

ウ 参加方法

全体研修の公開授業・協議会は、基本的に全員が参加する。1時間の授業を全て参観できない場合は、交代で参観する。ただし、協議会には全員が参加し、研修を深める。

それ以外の公開授業は、参観した職員で協議会を行う。

③ 知見の集積

授業後1か月以内に、学年部と研究主任とで授業の実際と考察を学年部のまとめとして作成する。

(2) 日程と担当

日時	内容	日時	内容
5月15日(水)	校内研修① ・研修計画について ・公開授業について 等	10月11日(水)	市教委訪問 ・略案にて公開
6月1日(木) 2日(金)	にいがた学びチャレンジ①	10月17日(火) 18日(水)	にいがた学びチャレンジ③
6月2日(金)	授業公開(関谷)	11月20日(月)	授業公開(関谷)
7月6日(木) 7日(金)	学習指導改善調査	12月5日(火) 6日(水)	にいがた学びチャレンジ④
7月中 ※入力完了日 8月2日(水)	学習指導改善調査 採点・分析	12月12日(火) 13日(水)	ベネッセ学力調査
夏季休業中	校内研修② ・授業実践の振り返り ・全国学調	1月	校内研修④ ・授業実践の振り返り ・学年末に取り組むこと
	校内研修③ ・講師を招いての研修 (できたら)	2月8日(木) 9日(金)	にいがた学びチャレンジ④
	※指導案検討も随時行う	2月	校内研修⑤ ・今年度の成果と課題 ・次年度の方向
9月4日(月) 5日(火)	にいがた学びチャレンジ②	※標記の他にも水曜日放課後を活用して、校内研修を行う。 ・学級づくり講座 ・ICT活用研修 等 ※まとめ作成の〆切 1月12日(金)	

※必要に応じて、年1~2回外部指導者を招聘する授業を行う。

※指導案・まとめ等を集約し、HPで公開する。

※市教育センターの示範授業「授業の匠シリーズ」に積極的に参加する。

公開授業者は、夏季休業中に、構想の段階、もしくはある程度指導案を作成した段階で、学年部、研究推進委員会の先生方とで検討する。また、授業日5日前までには、指導案を起案する(外部指導者を招聘する授業は10日前まで)。

5 日常の研修内容

(1) 年間を通して意識して授業していく事項

- ① 柏崎ステップアップ学びプラン
- ② 児童が課題意識をもって追究する授業
- ③ 児童がお互いの考えを話し合う授業
- ④ 各教科・領域の「見方・考え方」とは何かを考えた授業

(2) 授業づくりのための基礎となる指導

- ① 日常的な「聞く」「話す」「かかわる」力の育成を意識した『みずほ学びのスタンダード』を活用した指導（例：重点を決めて取り組む，自分で決めて取り組む，振り返りの充実など。）
- ② 「◎」と「まとめ」のある板書構成
- ③ ICT を活用した個別最適な学びと協働的な学び
- ④ 家庭学習の充実
 - ・「家庭学習強調週間」を生かした自分で決めて行う家庭学習の定着
 - ・家読の奨励，授業とリンクした家庭学習課題の設定（※ICT の活用）
 - ・取組を職員間で情報共有し、意欲的に取り組む工夫に繋げる

(3) 日頃の学力向上を目指した授業づくり

- ① 過去の学力向上推進システム（W e b 配信問題）を生かした授業改善，結果分析・補充指導
- ② 全国学力学習状況調査，学習指導改善調査，ベネッセの学力調査による学力分析・考察

(4) 人権教育，同和教育，いじめ等に係る生徒指導研修

担当の計画による。

(5) 市教委論文への応募

日常の授業を理論的に価値付け，実践研究者としての能力を高めたり，自分の指導を振り返ったりして授業改善につなげるため，市教委論文への応募を行う。なお，転入してから3年目に執筆することを原則とする。ただし，執筆者の希望により，1・2年目に執筆したり，その他団体が募集する論文へ参加したりする場合もある。執筆者へのサポートを研究推進委員会と管理職が積極的に行う。

<資料 前研究1～2年次研究の成果・課題>

①各教科・領域の「見方・考え方」について

- 筆者の論の進め方の工夫である「事例の順番」という見方から、説明文を捉えさせることの有効性（国語科 説明文 第6学年）
- 単元を通し、毎日の授業で、数学的な見方・考え方を示し、気付かせることの有用性（算数科 かけ算 第2学年）
- 三角形、四角形でない図形の提示とペアづくりの活動による、図形の構成要素という見方の意識付けの有効性（算数科 三角形と四角形 第2学年）
- 携わっている人の資料や動画を提示することでの、関わる人の思いの読み取りの有効性（社会科 地域で受けつがれてきたもの 第4学年）

②自分事になり得る単元を貫く課題や本時の課題，問い返しの質の向上と話合いの仕方の工夫について

- 各グループでの問い返しの有効性
- その後の話合い活動の形態をペアやグループなど，児童に選ばせることでの主体性の高まり

③各教科・領域の「見方・考え方」の価値付けの仕方について

- 各教科・領域における見方・考え方を働かせた姿の価値付けには，学びを振り返る場や学んだことを生かす場を設定することで，見方・考え方を働かせて問題解決をする児童の姿のさらなる表出につながる。

- ・各教科・領域の見方・考え方を働かせて問題解決していく姿の表出には，教師が見方・考え方を設定したら，その見方・考え方を働かせた姿とはどんな姿なのかを具体像まで明確にもち，洗い出す必要がある。
- ・児童の思考の深まりを促すには，単元を貫く問題意識や自分事として捉えることができる単元構成，子どもの追求意欲を高める工夫を設定した上で，問い返しをすることの必要条件を満たす必要がある。（必要条件…全員が問題に対する自分の考えをもっている・焦点付けた問い返しなど。）
- ・資料や動画の見せ方で児童の課題に対する理解度が大きく変わる。提示の仕方の工夫も必要である。
- ・児童の興味・関心を引き出すための発問や課題を精選することが必要。併せて単元全体を見据えた指導計画を立てる必要がある。